

三芳町小中学校再編計画(案)に対する町の考え方について

町の考え方を下記の通り取りまとめましたので、お知らせします。

パブリック・コメント案件：三芳町小中学校再編計画(案)		
担当課：学校教育課	メールアドレス：gakko@town.saitama-miyoshi.lg.jp	
提出された意見の件数	11 件	
対 応 状 況	下記のとおりとします。	
提出された意見等	対応方針	町の考え方
はじめにの1ページに、令和4年5月に学校再編検討委員会を立ち上げ、令和4年12月「適正規模適正配置の報告書」をいただいたことや、学校再編等審議会など、学校問題を多くの町民に周知すべきなのに、ほんの一部の人によって教育委員会に提出されています。審議会においても「統廃合ありき」で審議されていました。 上富小学校をなくすことは地域住民や児童にとって重要な問題です。そのため上富小学校存続の声が多くなっています。4ページ上富小学校児童数は2028年度84人。2029年度75人。平均1学年で13くらいいるので存続は可能です。 児童一人ひとりを見てあげることのできる学校は理想の学校です。児童のためにも存続すべきです。	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。 学校再編によって、児童の多様な興味関心に応じた幅広い視点からの指導、自ら課題を見つけ協働的に学び合うことができる教育環境を提供できると考えます。
上富小を今後に残してほしい。 ・地域に根付いた小学校である。 ・祖父母、父母、子どもと代々通学してきた小学校である。 ・自然災害、地震、火山の噴火等の災害が頻発、災害が予想される中、上富小を維持、存続させることで上富小学校を地域の避難先として活用できる。	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。
上富小学校は小規模校の特徴を活かした、地域と結びついた今まで通りのきめ細かな行き届いた指導が行われることを希望します。 町内児童数の減少が言われていますが町の子育てをする	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。 子育て環境については、町全体で検討すべき重要課題とし

状況はどうなのでしょう。公共交通の充実や、給食費無料等の町の施策で子育てする環境を充実させることを希望します。		て、今後も充実を図るべく検討してまいります。
上富小学校の廃校に反対します。 上富小学校の廃校・統合は、子どもたちの心と地域の未来を置き去りにした「大人都合」の暴走です。これは絶対にやってはならないことです。 そもそも、学校再編等審議会は最初から「上富小をなくす」ことを前提に発足しており、その結果として出された答申は、あらかじめ敷かれたレールの上をただ走っただけにすぎません。教育委員会はこの答申を受け、令和10年度からの統合を「決まったこと」として進めようとしています。 保護者や地域住民の声はどうだったのでしょうか？ 実施されたアンケートは、たった10日間、回答率はわずか44.6%。実に半数以上の55.4%が声を届けることさえできなかったのです。その上、設問も「統廃合ありき」の誘導的な内容で、「反対」という選択肢すらない。これでは「住民の意見を聞いた」とは到底言えません。 さらに重大なのは、当事者である子どもたちの気持ちが無視されていることです。彼らのアンケート結果は公開されず、廃校に賛成なのかどうか疑問です。廃校が現実になれば、日々通り慣れた道や仲間との日常が突然奪われる。そうした心の痛みに誰が寄り添うのでしょうか。 拙速な決定、誘導的な調査、そして子どもの声を聴かない姿勢——これが教育行政のあるべき姿でしょうか？ 急ぎすぎた背景に、別の「都合」や「理由」があるのではないかとすら思えてしまいます。 地域の声に耳を澄ませ、子どもたちの瞳をしっかりと見つめてください。 統合ありきの議論ではなく、「本当に守るべきものは何か」をもう一度、立ち止まって考えるべきです。	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。 学校再編によって、児童の多様な興味関心に応じた幅広い視点からの指導、自ら課題を見つけ協働的に学び合うことができる教育環境を提供できると考えます。 子どもたちの中には、学校が一つになることを楽しみにしている声も多く聞かれ、一緒に学習や行事に取り組みたいという気持ちを大切にしていきたいと考えています。

小中学校再編計画の、特に上富小学校を廃校にし、三芳小学校に統合することに反対します。元三芳町立小／中学校に勤務していた者として、子どもたちの教育をもっと重視してほしいという願いを強くもっています。教育をすすめる上で最も重要なことは、子どもたち一人ひとりをしっかり見つめ、まろごと受け止めて指導に当たることと考えます。上富小学校はそうした教育活動をしやすい環境にあります。小規模校ゆえに教師の児童理解や、児童相互の理解がしやすく、子どもの思いを受け止めながら学校生活をすすめるやすいと考えます。また、歴史的にも重要な地割の中心地に位置し、町内はもとより他市町からも見学に訪れるという学校です。世界農業遺産にも認定された地で、今後 50 年、100 年と生活していく地域住民にとって、まさに所ともなる学校です。子育て・教育の生きた現場となっていることは、未来の三芳町にとって大変価値のあるものです。それは、資料館という名のハコモノや、ましてや「道の駅」なる商業施設とは違う、三芳町の、上富地域の未来に続く施設です。是非、存続させて頂けるようご尽力をお願いします。 また、小規模、少人数だから廃校、というのでは余りに短絡的だと考えます。人数が少なく困るなら、増やす努力をまずすべきではないでしょうか。学区の見直しや撤廃などで、上富小以外の校区の児童の受け入れなど、検討の余地は十分にあります。市街化調整区域のため新しく住宅を建設できないともいわれますが、100%無理とせず、工夫次第で居住者を増やすことができないか、これも検討されるべきです。そうした検討も不十分のまま、「廃校」の結論を出すのは余りに性急だと言わざるを得ません。 さらに、廃校とされる児童の思いをどうするのか。資料には、「統合することに賛成か反対か。」に対する子どもたちの意見は全くありません。聞き取っていないのです。「子どもの権利条例」を定めた町として、大きな汚点です。もしも統合する	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。 学校再編等審議会では学区自由化などについても検討しましたが、学校再編によって、児童の多様な興味関心に応じた幅広い視点からの指導、自ら課題を見つけ協働的に学び合うことができる教育環境を提供できると考えます。 また、上富地域の特色を生かして、世界農業遺産についての学びなどの教育活動を全校で展開してまいります。 三芳小と上富小のそれぞれの良さを生かした教育活動を進めてまいります。
--	-------------------	---

のであれば、「吸収合併」ではなく「対等合併」にすべきです。その上で、では校歌はどうするか、校章はどうするか、なども見直しが必要です。子どもの意見に「歓迎会をする」というものがありました。子どもの思いなのでそれは尊重したいですが、そもそも「歓迎」ということではないはずです。是非、廃校見直しを！		
私は上富小学校・三芳小学校の再編（統廃合）に関して、町の動きは拙速だと思います。 資料にある、上富小学校・三芳小学校の再編（統廃合）に係る保護者アンケート結果は、全体で「どちらかといえば必要だと思う」、「必要だと思う」が62.2%ありますが、全体の回答率は44.6%と半分を満たしていません。全体の回答率に「どちらかといえば必要だと思う」、「必要だと思う」のポイントを乗じれば、3割程度の統合賛成で、未回答者の意見は、反映されていません。公表資料から、未回答者の意見を確認したか確認できません。 別件の（仮称）地域活性化発信交流拠点整備計画の内容をみるに、上富小学校の活用案が浮上しているのを見ると、この統合を早急に進めたい町の動きは、住民の声を丁寧に拾っていないと見えるのはやむを得ないと思います。先般（仮称）地域活性化発信交流拠点整備計画（案）の意見募集には、上富小学校の存続を切望する意見が多数ありました。私は上富小学校の卒業生ではありませんが、三芳町の住民として考えると、三芳町の動きは住民の声を十分に拾っておらず、再編を進めるには拙速だと思います。上富小学校の存続を切望している方が声高になるのは、それ相応の理由があるからだと思います。これら関係者が納得できるように、町は誠実に丁寧な対応をするべきだと思います。	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。 学校再編によって、児童の多様な興味関心に応じた幅広い視点からの指導、自ら課題を見つけ協働的に学び合うことができる教育環境を提供できると考えます。

小中学校の「再編」とは、「統合」「廃校」「新設」を意味します。今回の計画では、「廃校」と「統合」が取り上げられています。「廃校」にしても「統合」にしても、それぞれに様々な理由があるので、子どもたちにその理由を説明をしながら、「廃校」を受け入れますか？「廃校」を受け入れられませんか？を最も初めに聞くべきでした。本年6月に上富小と三芳小の子どもたちからの意見聴取は、「統合」と「廃校」を前提とした意見の聞き方でした。最も初めの段階での子どもたちの声ではありません。上富小と三芳小の「統廃合」がどうしても避けられないのであれば、なおさら、初めに戻って子どもたちの声を聞かなければなりません。また、学校は、地域の人々に守り育てられ、歴史を重ねてきました。学校の「伝統」です。「統廃合」によって、一方の「伝統」が失われてしまうような「統廃合」であってはなりません。 「上富小でしかできないことができなくなる。」(子ども)、「三芳小に転入生がたくさん来たという感じになってほしくない。新しい学校になるという雰囲気にしてほしい。」(保護者)の意見を大事にしたいです。 「令和10年を目途に」と期限を区切っていますが、子ども、保護者、地域の人たち、教職員、多くの人たちが納得できるよう、今回の計画案は、保留にして教育的観点を重視して議論を重ねるべきだと思います。	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。 学校再編によって、児童の多様な興味関心に応じた幅広い視点からの指導、自ら課題を見つけ協働的に学び合うことができる教育環境を提供できると考えます。 上富の伝統芸能を継続的に体験できるよう機会を設けていきたいと考えています。
上富小学校（以下「上富」）の統廃合の結論を急がず、児童・地域の意向を反映した再検討を行っていただくことを求めます。 まず、住民・保護者の意思が明確です。251名の地域住民署名、保護者の59%の反対意見、町全体での558名の反対署名が提出されています。これらを重く受け止めていただきたいです。次に、経産省のマネジメント計画はあくまで「指針」に過ぎず、町の独自判断で修正可能です。それにもかかわらず、集会所削減と同列に「8校を4校に減らす」方針が機械的	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。 学校再編等審議会では分校化や学区自由化についても検討しましたが、学校再編によって、児童の多様な興味関心に応じた幅広い視点からの指導、自ら課題を見つけ協働的に学び合うことができる教育環境を提供できると考えます。

に適用されています。上富地区で急激な人口減少が確認されていない現状では、中央方針の盲従は地域自治の理念に反します。 また、議審議程で、分校化や学区自由化などの代替案が十分に扱われず、児童へのアンケートも不十分でした。三芳町の「子どもの権利条例」に照らしても、児童が学校を「心の拠り所」（児童本人の表現）とする声を軽視すべきではありません。 最後に、町長による「事実上の決定」を示唆する発言は、議会審議や住民合意を経ない段階でのものであり、民主的手続きからの重大な逸脱と受け止めざるを得ません。 上富の廃校ありきで進めることをやめ、結論を急がないでください。経産省方針の単純適用ではなく、教育の本質と地域の声に基づく判断へ改めてください。 分校化、学区自由化などの代替案を同等に比較検討し、児童・保護者・地域の参画機会を保障してください。 「子どもの権利条例」に則り、上富を「心の拠り所」とする児童の声を最優先で反映してください。町長の「事実上の決定」を示唆する発言を撤回し、議会審議と住民合意を尊重する公正な手続きを明確化してください。 以上、上富に関する統廃合の再検討を丁寧かつ徹底的に実施していただくことを強く求めます。		
今回の再編計画は、住民や子どもたちの声を十分に反映しないまま、統合ありきで進められている印象を受けます。アンケートでは確かに 6 割が統合に「必要」と答えていますが、3 割は「必要ない」、1 割は「判断できない」と答えており、地域内で意見が大きく割れている事実を無視することはできません。子どもたちも「新しい友達ができて楽しみ」と同時に「通学が大変」「いじめや仲間外れが心配」「伝統行事が消えてしまう」と訴えています。これらの声を十分に受け止めずに統合を決めることは、地域と	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。 学校再編によって、児童の多様な興味関心に応じた幅広い視点からの指導、自ら課題を見つけ協働的に学び合うことができる教育環境を提供できると考えます。

子どもたち双方を傷つけかねません。 さらに問題なのは、アンケートの設問原文や自由記述の全体像が未公開であることです。どのような聞き方をし、どんな意見が寄せられたのかを町民が確認できない以上、その結果を根拠として統合を正当化するのには透明性に欠け、説得力を持ちません。 通学方法もスクールバス運行に依存する形となっていますが、ルートや運行体制は「今後検討」とされ、災害時の対応や運営費用の持続可能性は未解決です。子どもたちの命と日常を支える最も重要な部分が曖昧なまま進められることは、大きな不安を招きます。 加えて、本来であるならば、標準規模校（三芳小）と小規模校（上富小）の双方に需要がある以上、学区選択制など柔軟な仕組みを導入すれば、すべての児童・保護者のニーズを賄うことができるはずです。しかしその検討が全く行われていないことは大きな問題です。統合ありきではなく、複数の選択肢を公正に比較した上で議論することが不可欠です。 私は、現時点での統合判断は拙速であり、取り返しのつかない影響を残す危険があると強く訴えます。１．アンケート原文と自由記述を全面公開すること ２．子どもの声を再度丁寧に集め、反映すること ３．スクールバス運行を含む安全・費用面の具体策を示すこと ４．学区選択制、低学年の分校制、特認校など、統合以外の代替案を比較検討すること これらを行わずに進める統合は、町民の信頼を失い、子どもたちの未来を危うくします。統合判断を延長し、丁寧な審議と納得と安心のもとで学校再編を判断することを強く求めます。		
三芳小学校との統合による上富小学校の廃校を今一度見直して下さい。計画（案）５頁「③再編の必要性」の中で、「小規模校には、きめ細やかな指導や人間関係が深まりやすいなどのよさがある」としながら、その後半でなぜ小規模校の「デメリット」ばかりをあげつ	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。 学校再編によって、児童の多様な興味関心に応じた幅広い視点からの指導、自ら課題を見つけ協働的に学び合うことができ

らうのでしょうか。集団生活の中で人間関係を培っていくことが大事というのであればタブレットによるIT教育推進をなぜ進めるのでしょうか。小規模校があたかも「悪」であるかのように書かれていますが、利点の方が多いのは多くの人々が認めるところでしょう。また、計画(案)1頁「はじめに」の3行目「限りある財源の中で」、いきなり真っ先に「財源」ですか？将来を担う子どもたちのことを、まずは「財源」もっとはっきり言えば「カネ」ではかるのですか？教育というのは「カネ」ではかるものなのですか？財源に限りがあるのは当然ですが、まっさきに教育の為に使うことを惜しむのですか？無駄遣いをしていないと胸を張って言えますか？次世代の為に使うより大事なものは何ですか？上富地域を含む三富地域の「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が日本農業遺産、世界農業遺産に認定され、町はそれを大きくアピールしています。にもかかわらず何故その上富地域の学校をなくしてしまうのでしょうか。計画(案)4頁で「上富地区はほぼ全域が市街化調整区域であり、今後の住宅開発や人口増、それに伴う児童増が見込まれにくい」としています。しかし、上富地域の農家さんは後継者をしっかり育てています。私の知り合いの農家さんのお孫さんも農業を継ぐと頼もしいことを言っていると伺っています。であれば、世界農業遺産に認定された上富の農業の後継者を育てるためにも、そこに学校を残すことはとても大事なことでないのでしょうか。学校がなくなることによって逆に後継者となるべき若い世帯が出て行ってしまうという懸念はないのでしょうか。江戸時代から受け継がれてきた伝統農法を守るためにも上富小の存在は欠かせません。この間、学校再編問題は上富小学校の廃校ありきで進んできたように思えてなりません。そして、諮問が出されただけであり、まだ廃校と決定していないにもかかわらず、「道の駅」計画の中に上富小の利用が盛り込まれているなど、本当に地域

る教育環境を提供できると考えます。

また、上富地域の特色を生かして、世界農業遺産についての学びなどの教育活動を全校で展開してまいります。

と子どものことを考えているのか甚だ疑問です。今一度立ち止って、本当に三芳小との統合でよいのか、再考をお願い致します。		
「上富小学校を存続すべきです」 1. 小規模校の上富小学校は一人ひとりの児童を見てあげることが出来ます。 2. 学校再編等審議会への存続の願いの署名が 251 名ありました。 3. 町長宛の存続の署名は 558 名でした。 要望をかなえてください。35 人学級は多い数です。現在の上富小学校は児童に親しまれています。残してください。	原案の通りとします。	本計画は、学校再編等審議会の答申の考え方を尊重しつつ、アンケート調査や意見聴取会等でのご意見も踏まえて策定しております。 学校再編によって、児童の多様な興味関心に応じた幅広い視点からの指導、自ら課題を見つけ協働的に学び合うことができる教育環境を提供できると考えます。